PPPoE マルチセッション用の設定手順

フレッツグループアクセス 端末型払い出しでの接続方法 2 ~ GRE トンネルを利用した接続例 1 ~

センチュリー・システムズ(株)

はじめに

この設定ガイドは、以下の機種に対応しています。

- XR-350/DES
- ・XR-360 シリーズ各製品
- XR-380/DES
- ・XR-410 シリーズ各製品
- XR-440/C
- XR-640/CD
- ・XR-1000 ファームウェア ver 2.0 以降
- XR-1000/TX4

この設定例は、インターネットへの接続とフレッツ・グループアクセスの利用を同時におこなう場合に必要な設定例です。 フレッツ・グループアクセスプロ端末型アドレス払い出しとフレッツ・グループアクセスライトでの利用にお使いいた だける設定例となります。



[a-1]インターフェース設定

Ether 0ポート	 ● 固定アドレスで使用 IPアドレス 192.168.10.1 ネットマスク 255.255.255.0 MTU 1500 C DHOPサーバから取得 ホスト名 MACアドレス MACアドレス IPマスカレード (このボートで使用するIPアドレスに変換して通信を行います) ステートフルパケットインスペクション Proxy ARP 	Ether Oポート	 ● 固定アドレスで使用 IPアドレス 192.168.20.1 ネットマスク 255.255.255.0 MTU 1500 ● DHOPサーバから取得 ホスト名 MACアドレス ■ MACアドレス ■ IPマスカレード (このボートで使用するIPアドレスに変換して通信を行います) ■ ステートフルパケットインスペクション ■ Proxy ARP
Ether 1 ポート	 ● 固定アドレスで使用 IPアドレス 192.168.1.254 ネットマスク 255.255.255.0 MTU 1500 C DHCPサーバから取得 ホスト名 MACアドレス IPマスカレード (このボートで使用するIPアドレスに変換して通信を行います) ステートフルパケットインスペクション Proxy ARP ボートの通信モード ● 自動 C full=100M C half=100M C full=10M C half=10M 	Ether 1 ポート	 ● 固定アドレスで使用 IPアドレス 192.168.1.254 ネットマスク 255.255.255.0 MTU 1500 ● DHOPサーバから取得 ホスト名 MAOアドレス MAOアドレス IPマスカレード (このボートで使用するIPアドレスに変換して通信を行います) ステートフルパケットインスペクション Proxy ARP ボートの通信モード ● 自動 C full=100M C half=100M C half=10M
デフォルトゲートウェイ		デフォルトゲートウェイ	

<XR #1の設定>

<XR #2の設定>

それぞれの LAN に合わせて、Ether0 ポートの IP アドレス、ネットマスクを設定してください。

[b-1]PPPoE 接続先設定1

<XR #1の設定>

プロバイダ名	
ユーザロ	<isp 接続のためのユーザーid=""></isp>
パスワード	<isp 接続のためのパスワード=""></isp>
DNSサーバ	 ○割り当てられたDNSを使わない ○ ブロバイダから自動割り当て ● 手動で設定 ブライマリ xxx.xxx.xxx セカンダリ xxx.xxx.xxx.xxx
LCPキーブアライブ	チェック間隔 30 秒 3回確認出来なくなると回線を切断します 0秒を入力するとこの機能は無効になります
Pingによる接続確認	 使用しない 使用するホスト 発行間隔は30秒固定、空間の時はPtP-Gatewayに発行します
Ui	nNumbered-PPP回袋使用時に設定できます
IP7F V.X	回線接統時に割り付けるグローバルIPアドレスです

接続先設定1にインターネット接続のための設定 をします。

ユーザー ID とパスワード、DNS 設定など。

<XR #2の設定>

プロパイダ名	group access					
ם- לו ס	<グルーブアクセス接続のためのユーザーID>					
パスワード	〈グループアクセス接続のためのパスワード〉					
DNSサーバ	 ○ 割り当てられたDNSを使わない ● プロバイダから自動割り当て ● 手動で設定 プライマリ セカンダリ 					
LOPキーブアライブ	チェック間隔 30 秒 3回確認出来なくなると回線を切断します 0秒を入力するとこの機能は無効になります					
Pingによる接続確認	 使用しない 使用する 使用するホスト 発行間隔は30秒固定、空棚の時はPtP-Gatewayに発行します 					
UnNumbered-PPP回袋使用時に設定できます						
IP7F LA	192.168.50.1 回線接続時に割り付けるグロー バルIPアドレスです					

接続先設定1にフレッツグループアクセス接続の ためのユーザーIDとパスワードを設定します。

さらに、フレッツグループアクセスで割り当てら れる IP アドレスを設定してください。

[b-2]PPPoE 接続先設定2

<XR #1の設定>

プロパイダ名	group access
고 - ザID	<グループアクセス接続のためのユーザーID>
パスワード	<グループアクセス接続のためのパスワード>
DNSサーバ	 ○ 割り当てられたDNSを使わない ◎ ブロバイダから自動割り当て ○ 手動で設定 ブライマリ セカンダリ
LCPキーブアライブ	チェック間隔 30 秒 3回確認出来なくなると回線を切断します 0秒を入力するとこの機能は無効になります
Pingによる接続確認	 使用しない 使用する 使用するホスト 発行間隔は30秒固定、空間の時はPtP-Gatewayに発行します
Un	Numbered-PPP回塾使用時に設定できます
IPアドレス	192.168.252.1 回線接続時に割り付けるグロー バルIPアドレスです

接続先設定2にフレッツグループアクセス接続の ための設定をします。ユーザー ID とパスワード を設定します。

さらに、フレッツグループアクセスで割り当てら れる IP アドレスを設定してください。

[b-3]PPPoE 接続設定

<XR #1の設定>

回袋状患	主回線で接続しています
接続先の選択	●接號先1 C接號先2 C接読先3 C接読先4 C接読先5
接続ポート	C Ether0 @ Ether1 C BRI(64K) C BRI MP(128K) C RS232C
接続形態	◎ 手動接続 ● 常時接続 ◎ スケジューラ接続
BRI接続タイプ	●通常 Con-Demand接続
1Pマスカレード	○無効 ⓒ 有効
ステートフル パケット イン スペクション	○無効 €有効
デフォルトルートの設定	○無効 €有効

主回線が自動的にデフォルトゲートウェイに設定 されますので、ISP 接続を主回線、グループアク セス接続をマルチ接続に設定します。 接続先は「接続先1」を選択し、IPマスカレード は必ず[有効]に設定してください。

<XR #2の設定>

回袋状差	主回義で整装しています
接続先の選択	●接號先1 ◎接號先2 ◎接號先3 ◎接號先4 ◎接號先5
接続ポート	C Ether0 C Ether1 C BRI(64K) C BRI MP(128K) C RS2320
接続形態	○手動接続 ○常時接続 ○ スケジューラ接続
BRI接続タイプ	● 通常 C On-Demand接続
IPマスカレード	◎無効 ◎有効
ステートフル パケット イン スペクション	〇無効 『有効
デフォルトルートの設定	○無効 ● 有効

接続先は「接続先1」を選択します。 端末型接続ですがGREを使用しますので、IPマ スカレードは[無効]にします。

[b-4]PPPoE 接続設定 マルチ接続回線

<XR #1の設定>

マルチPPP/PPPoEセッション機能を利用する際は以下を設定して下さい

マルチ接続 #2	C無効 C 有効
接続先の選択	◎接読先1 ◎接読先2 ◎接読先3 ◎接読先4 ◎接読先5
接続ポート	C Ether0 @ Ether1 C BRI(64K) C BRI MP(128K) C RS232D
BRI接続タイプ	● 通常 C On-Demand接続
IPマスカレード	€無効 C有効
ステートフル パケット イン スペクション	○無効 ●有効

マルチ接続 #2を「有効」に設定して、接続先は 「接続先2」を選択して下さい。 端末型接続ですが GRE を使用しますので、IPマ スカレードは[無効]にします。

マルチ接続側は、フレッツグループアクセスに接 続する設定にしています。

[c]GRE 設定1

<XR #1の設定>

インタフェー スアドレス	192.168.250.1/30 (例:192.168.0.1/30)
リモート(宛先)アドレス	(192.168.50.1 (192.168.1.1)
ローカルG道信元)アドレス	(192.168.252.1 (192.168.2.1)
PEERアドレス	192.168.250.2/30 (例:192.168.0.2/30)
TTL	255 (1-255)
MTU	1476 (最大値 1476)
TOS設定	● TOS値の指定 00x0-0x1e) ● inherit(TOS値のコピー)
GREoverIPSec	 ○ 使用する ipsec0 ▼ ○ Routing Tableに依存
IDキーの設定	(0-4294967295)
End-to-End Checksumming	○ 有効 ● 無効
MSS設定	C 有効 ● 無効 MSS値 D Byte (有効時にMSS値が0の場合は、 MSS値を自動設定(Clamp MSS to MTU)します。)

インターフェースアドレス、PEERアドレスはGREトンネル生 成用の仮想 IP アドレスを設定します。

この設定例では192.168.250.1/32 をインタフェースアドレス、192.168.250.2/32 を PEER アドレス(XR #2 のインタフェースアドレス)としています。

リモートアドレスにはXR #2、ローカルアドレスにはXR #1 に実際に割り当てられている IP アドレスを設定します。 (画面はXR-380/DES のものです)

<XR #2の設定>

インタフェー スアドレス	192.168.250.2/30 (例:192.168.0.1/30)
リモート(宛先)アドレス	192.168.252.1 (例:192.168.1.1)
ローカルG差信元)アドレス	192.168.50.1 (例:192.168.2.1)
PEERアドレス	192.168.250.1/30 (₩):192.168.0.2/30)
TTL	255 (1-255)
MTU	1476 (最大值 1476)
TOS設定	● TOS値の指定 (0x0-0x4e) ● inherit(TOS値のコピー)
GREoverIPSec	 ○ 使用する ipsec0 ▼ ○ Routing Table に依存
IDキーの設定	(0-4294967295)
End-to-End Checksumming	€ 有効 ● 無効
MSS設定	C 有効 C 無効 MSS値D Byte (有効時ICMSS値が0の場合は、 MSS値を自動設定(Clamp MSS to MTU)します。)

192.168.250.2/32 をインタフェースアドレス、 192.168.250.1/32をPEERアドレス(XR #1のインタフェース アドレス)に設定します。

リモートアドレスにはXR #1、ローカルアドレスにはXR #2 に実際に割り当てられている IP アドレスを設定します。

(画面は XR-380/DES のものです)

[d]入力フィルタ設定

<XR #1の設定>

<XR #2の設定>

インターフェース tre No.	インターフェース tre No.						
(1-64) 方向 動作 プロトコル 送信元ボート あて先アドレス あて先ボート PPP/PPPoEーマルチ #2 パケ小受信時 許可 gre	(1-64> 方向 動作 ブロトコル 送信元アドレス 送信元ポート あて先アドレス あて先アドレス PPP/PPPoEーマルチ #2 パケット受信時 許可 gre						
マルチ接続側でステートフルインスペクションを	マルチ接続側でステートフルインスペクションを						
有効にしているときは、入力フィルタを設定して	有効にしているときは、入力フィルタを設定して						
ください。	ください。						
インタフェースは「 PPP/PPPoE - マルチ #2 」を	インタフェースは「 PPP/PPPoE - 主回線#1 」を						
選択します。	選択します。						
プロトコルは「gre」を選択します。	プロトコルは「gre」を選択します。						

[e]スタティックルート設定

<XR #1の設定>

ホスト/ネットワーク	アドレス	ネットマスク	インターフェース	gre No. <1−64>	ゲートウェイ	ディスタンス <1-255>	No	ホフト/ネットローク	761.7	ネットフラク	インターフェーフ	gre No.	ゲートウェイ	ディスタンス	SIRC
ホスト 💌	192.168.50.1		PPP/PPPoE-マルチ #2 💌			1	1	ホットローク マ	19216810.0	255 255 255 0	GRE「左欄gre No 必須」	<1-64>	9 1 924	<1-255>	ниет
ネットワーク 💌	192.168.20.0	255.255.255.0	GRE[右欄gre No.必須] ▼] [1 [1			102.100.10.0	1200.200.200.0	Tarreporting to the server				

ます。

デフォルトルートは主回線接続側に向いているため、その ままではフレッツグループアクセスの対向拠点に対してア クセスできません。

したがいまして、対向拠点へのスタティックルート設定を 追加してください。

1つ目に、GRE パケットを XR #2 に転送するためのルーティ ングの設定をします。「ホスト」を選択し、XR #2 の IP ア ドレスを設定します。インタフェースは「PPP/PPPoE ーマ ルチ #2」を選択します。

2つ目に、LAN1とLAN2間の通信をGRE 経由にするための ルーティング設定をします。「ネットワーク」を選択し、 LAN2のネットワークアドレスとサブネット値を設定しま す。またインターフェースは「gre」を選択し、greNo.を 「1」に設定します。 P-ク 192.168.10.0 255.255.0 GREに右欄ere №.必須 「 LAN1 と LAN2 間の通信を GRE 経由にするためのルーティン グ設定をします。「ネットワーク」を選択し、LAN1 のネッ トワークアドレスとサブネット値を設定します。またイン ターフェースは「gre」を選択し、greNo.を「1」に設定し

以上ですべての設定は完了です。設定後に PPPoE 接続を開始してください。

この設定例では、端末型払い出しでも、LAN 間の相互通信が可能となります。

<XR #2の設定>

フレッツグループアクセス 端末型払い出しでの接続方法 2

~ GRE トンネルを利用した接続例 1 ~

2004年1月版

発行 センチュリー・システムズ株式会社

2001-2004 CENTURYSYSTEMS, INC. All rights reserved.